広域漁場整備実証調査
～アサリの母貝はどこにいる？～

伊勢湾のアサリの漁獲量は、昭和57年の約1万5千トンをピークに減少し始め、平成29年には約300トンまで激減し、それ以降も不漁が継続しています。

アサリの減少要因

1. 貧酸素水塊の大規模化
2. 台風や集中豪雨に伴う淡水化、波浪によるへい死
3. 親貝（母貝）資源・浮遊幼生の減少
4. 海の貧栄養化による餌の不足

しかし → 県内の河口域ではアサリの稚貝が毎年大量に発生！

なぜ？ → 既知のアサリ母貝場（鈴鹿、松阪、伊勢など）のほかに未知の母貝場がある？

どこ？ → アサリ母貝場の可能性がある名古屋港と四日市港で調査！

調査結果

＜名古屋港＞

アサリの資源量は、平成29年度は約28トンから724トンで推移し、このうち、殻長20mm以上の母貝の推定資源量は、約23トンから412トンでした。平成30年度は約853トンから1,869トンで推移し、このうち、母貝の推定資源量は、約393トンから1,080トンでした。母貝は、港内の水深5m以浅のエリアを中心に生息が確認されました。

＜四日市港＞

平成30年度のアサリの資源量は、約353トンから1,387トンで推移し、このうち、母貝の推定資源量は、約30トンから750トンで、秋以降に母貝の資源量が減少しました。母貝は、名古屋港と同様に水深5m以浅のエリアで確認されました。

＜まとめ＞

名古屋港、四日市港のアサリ母貝の資源量は、既知のアサリ母貝場と比較しても遜色ないレベルにあることが分かりました。特に名古屋港は、周年200トン以上のアサリ母貝が生存しており、伊勢湾における貴重な母貝場であると考えられます。

港湾区域でアサリが安定して確認された理由は、次の4つが推測されます。

①底層の溶存酸素濃度が、底生生物が生存可能な最低濃度（3mg/L）以上で周年維持。
②港内に大河川がないため、出水による塩分低下で死亡するアサリが少ない。
③港内が岸壁で囲まれているため、波浪の影響が少ない。
④採貝漁業が営まれていない。

アサリの資源が漁場では減少する一方で、港湾区域で安定して維持されている現状は非常に興味深く、本調査で得られた知見は、今後のアサリ資源復活に向けた公共事業の計画や資源管理計画の作成に貢献する、貴重なヒントになると思われます。

三重県水産研究所　鈴鹿水産研究室

Mie Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4　TEL (059)386-0163　FAX(059)386-5812

（2019年3月発行）